

共-51 大気汚染濃度分布のリアルタイム予測

統計数理研究所（現東京理科大学） 野 田 一 雄

大気汚染濃度の時空間分布の実時間予測は、汚染源を規制し、環境を保全していくために、必要不可欠な作業である。現在のところ実時間レベルでの予測は、予測モデルが不完全であるために、最終的には手作業によっているが、本来的には、予測システムの自動化が必要である。本研究では、自動化された予測システムの設計を終局的な目的としつつ、そのために必要な事項について、効果的なモデルの構築を中心として、調査・研究を行う。

研 究 会

共-11 高校・大学等における統計上の諸問題

統計数理研究所 鈴 木 義 一 郎

ともすると、統計学は数学の一分野であるとみなされる風潮が残されている為に、統計教育の重要性が依然として過少評価されている。これから高度情報化社会を生きていく若者にとって、正しい統計学の知識を身につけることは不可欠となるであろうから、特に高校・大学での教育こそ重要になってくる。国立大学共同利用機関として発足した当研究所は、統計教育の面でもリーダーシップをとることが要求されるので、まずは統計教育の実践面でのいろいろな問題点を認識し、今後どのような面での研究を強化していくべきかについて、主として中堅グループの研究者、教育者を集めてシンポジウムを開催する。単なる哲学論ではなく、具体的に実践できる方法を早急に発見できるような会議にする為に、事前の企画会議にも重点を置く。

共-12 数量化の方法論と応用に関する研究会

統計数理研究所 駒 澤 勉

各種計測データを用い、現象を予測や分類の問題として捉え統計数理的データ解析により分析することは人文・自然・社会科学の分野で色々な現象解明の問題にとって重要である。質的データ解析として数理化理論は林知己夫（現統計数理研究所長）が開発胎動し始めて 30 数年になり、現象解析に当たり各学問分野のみならず一般社会での利用の成果は計り知れない。しかし、コンピュータおよびプログラム技術の発達に伴い一部の篤志家に利用された時代と違って間違った安易な使われ方に対する適切な使用法の指導書が必要であり、また新しい展開に対する研究も重要視される。そこで、数量化の方法論の理論・応用利用の各分野の研究者を参集し、共同の研究発表・質疑・討論の場を設け、その成果を集大成させ普遍的な数量化の方法論の確立を目指す。

共-55 統計的データ解析とコンピュータ利用の接点における諸問題

統計数理研究所 鈴 木 義 一 郎

スーパーコンピュータやマイクロコンピュータなどの発達によって、科学技術計算における